

文法化への類型論的アプローチ: クラインと統語化の観点から

林智昭 (京都大学大学院)

1. 序言

本論では、文法化の一方向性 (unidirectionality) を捉える枠組みとして、Hopper and Traugott (2003) の「クライン (cline of categoriality)」と、Givón (1979) の統語化 (syntacticization) の融合的アプローチが、通言語的な言語変化の一端を捉える上で有用であると示す。本研究のアプローチは、将来的に、文法化という現象を類型論的観点から捉えていく基盤となるものと期待される。

2. 先行研究

Hopper and Traugott (2003) は、通言語的に、前置詞・接続詞・助動詞・代名詞・指示代名詞などの「機能語」は、名詞・動詞などの「内容語」から派生していると述べる。この流れは一方向性をもち、下記の cline of categoriality という形で示される:

(1) major category (> intermediate category) > minor category (ibid.:107)

Givón (1979) は、統語化の通時的変化に通言語的にみられる過程を下記のように定式化する:

- (2) a. DIACHRONIC: loose parataxis → tight syntax
- b. ONTOGENETIC: early pragmatic mode → later syntactic mode
- c. PIDGINS—CREOLES: nongrammar → grammar
- d. REGISTER LEVEL: unplanned-informal speech → planned-formal speech (ibid.: 82)

3. 事例分析

本節では、英語の動詞 consider からいわゆる「動詞派生前置詞 (deverbal prepositions; cf. 秋元 2002)」considering への文法化、日本語の動詞「言う」から「っていうか」への文法化に共通の通言語的変化 (1) (2) を検討する。データは、英語はコーパス(COCA)、日本語は著者の内省による。

- (3) a. What do you need to consider and ask?
- b. He looks amazingly healthy, considering his age.
- c. He was silent in the corner, considering. (COCA)
- (4) a. 彼は、開口一番、大声で「おはよう！」と言った。
- b. 言語学にはね、言語類型論という／?と言う領域があるんだ。
- c. っていうか／ってゆーか／??って言うか、あいつの発言、まじありえないんだけどさ...

(3a)は動詞的特質を保持している。(3b)は前置詞 for と同様の働きをもち、従属節をつくり名詞句を伴う (cf. 安藤 2005: 622)。(3c) は名詞を伴わず節から独立しており、話者の思考内容を背景化する働きをもつ (cf. 山梨 2000: 81)。(4a)の動詞「言う」は、節内の再分析「と+いう」を経て補助動詞 (4b) となり、やがて(4c)の段階では「っていう+か」という再分析、「と→って」「言 (い) → ゆ」という音韻上の変化がみられる。また、「っていうか」のみが独立し、聞き手の注意を喚起して話題を導入するマーカーとしての機能を担っている。(4a-c)の変化に伴い、「言う」という漢字表記がなされにくくなる。(3)(4)の共通項は、(1)の「動詞性の喪失に伴う機能語的特質への変化」であり、この過程は(2c) 非文法的から文法的へ、(2ab)並列的で緩やかな接続(動詞)から束縛的な従属的(cf. 名詞句を伴う(3b)、補助動詞を形成する(4bc))へ、という変化と合致する。

4. 結語

本論では、「クライン」「統語化」の融合的アプローチによって、通言語的にみられる文法化の一端を示した。類型論的観点からの文法化研究には、適切な史料の収集と緻密な言語観察による記述研究による reference grammar の蓄積が不可欠であり、地道な記述研究が求められる。

参考文献: 秋元実治 (2002)『文法化とイディオム化』／安藤貞雄 (2005)『現代英文法講義』／Givón, Talmy (1979) From discourse to syntax: Grammar as a processing strategy. In Talmy Givón (ed.), *Discourse and syntax*. 81-109. / Hopper, Paul J. and Elizabeth C. Traugott (2003) *Grammaticalization* (2nd edition) ／山梨正明 (2000) 『認知言語学原理』